

華陵高校舞台芸術部 平成十六年度上演作品

ほろどう

ワンツースリー

かりようびんが

『報道センター123』 作・迦陵頻伽

【受賞歴】

- 第二十二回周防地区高校演劇発表会(最優秀賞受賞)
- 第二十三回山口県高等学校演劇大会(最優秀賞受賞)
- 第四十二回中国地区高等学校演劇発表会(最優秀賞受賞)
- 第五十一回全国高等学校演劇大会(優秀賞受賞)
- 第十六回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演参加

【上演人数】

十二人十数人

【あらすじ】

ハナオカ高校報道部が手掛けるお昼の校内放送「報道センター123」。報道部の部員たちは己が信じる報道の理念に従い、日々番組制作に取り組んでいる。そんな中、学校一の人気者である男性教師にセクハラ疑惑が浮上する。真相を明らかにするべく立ち上がる報道部だったが、そこから学校全体を巻き込んだ大きな騒動へと発展していく。ジャーナリズムとは。正義とは。報道のあるべき姿とは。

【上演許可申請先】

- 上演を希望する場合は、karyobutage.since1996@gmail.comへ左記を明記のうえ、ご連絡ください。
- ①上演作品
 - ②目的（催物名、主催者名、会場等）
 - ③公演日、上演回数
 - ④対象観客（一般公開・配信の有無）
 - ⑤入場料（有料の場合は金額も）
 - ⑥担当者名および連絡先

※著作権使用料の入金先などは折り返しご連絡いたします。

【登場人物】

藤 <small>ふじ</small> あさひ	報道部長 (三年)
有賀 <small>ありが</small> 志良 <small>しいら</small>	報道部員 (二年)
江西 <small>えにし</small> 景 <small>けい</small>	報道部員 (一年)
藪下 <small>やぶした</small> 純一郎 <small>じゆんいちろう</small>	前期生徒会長 和食派リーダー (三年)
阿南 <small>あなん</small> 瑞穂 <small>みずほ</small>	後期生徒会長 洋食派リーダー (二年)
納谷 <small>なや</small> ミチル	テニス部員 (一年)
堤 <small>つつみ</small> 藍 <small>あい</small>	テニス部員 (一年)
岩瀬 <small>いわせ</small> 麻衣 <small>まい</small>	テニス部員 (一年)
近藤 <small>こんどう</small> 利査 <small>りさ</small>	科学同好会会長 (二年)
加藤 <small>かとう</small> 左 <small>たすく</small>	社会科教師 報道部顧問
新田 <small>にった</small> 圭祐 <small>けいすけ</small>	体育科教師 テニス部顧問
蟹江 <small>かにえ</small> 珠青 <small>たまお</small>	教頭
生徒・阿南親衛隊・洋食派・和食派	

※こちらに掲載されているのは二〇〇五年国立劇場で上演されたバージョンを再編した、改訂版です。過去出版されたものと相違している箇所がありますので予めご了承ください。

#第一場 テロ事件発生

舞台中央奥に設置された山台上の大型テレビフレーム内が報道部のスタジオ。スタジオの手前には機材やデスクなどが設置されたモニター室。下手には可動式の小型テレビフレームがおかれ、その中はVTR。

九月十一日。女生徒の黄色い声援が響く。お昼の校内放送にて、テニス部の練習風景のVTRが流れている。小フレーム内には藤、新田、テニス部員（納谷、堤、岩瀬）。スタジオ内には加藤、モニター室では機材前に江西、インカムマイクの前に有賀。

藤 （テーマソングとともに）昼下りのテニスコートからお伝えしています。女子テニス部は、昨年度まで廃部第一候補でした。しかし今、この華やかなコートをご覧下さい。

再び華やかな歓声上がる。

藤 今日はテニス部の救世主・新田圭祐先生にお話を伺います。部活動中お邪魔します。

新田 （納谷に）後任せたぞ。

納谷 はい！

藤 それにしても先生、すごい人気ですね。

新田 どうかな。

藤 去年まで部員二名という弱小テニス部が、今年は何と三十七名ですよ。奇跡を起こしたご感想は？

新田 テレビでやってたからだろ？ ほら、「エースをねらえ」とか？

藤 報道部のリサーチによると、(フリップを見せながら)三十七名中二十三名の部員が新田先生目当

てで入部したと言っています。

新田 目当て？ まあ、みんな、よく頑張ってるよ。この夏の大会じゃあ、上位とれた子もいたしね。

（納谷を指す）

納谷 （うれしそうに）先生……。

堤 （不満げに）またミチル。

岩瀬 （不満げに）あたしだって。

VTR終了とともに、スタジオ内へ照明が切り替わる。テニス部員は小フレームを持って退場。
藤、新田はスタジオ内の席へ移動。

江西 Vおわりまーす。

有賀 スタジオ五秒前、四……（キューを出す）。

藤 （再びテーマソングとともに）報道センター123です。本日の「あなたに胸キュン」、ゲストは
今人気大爆発のニッケイこと新田圭祐先生です！ 新田先生、こんにちは。

新田 こんにちは。なんか緊張するな。これ、全校に流れてんの？

有賀 つまんない番組。

江西 志良先輩、本番中に文句言うのやめませんか？

有賀 何、「あなたに胸キュン」って。はずかしい。

江西 ネーミングはちよつと……。

有賀 でしょ？ 今さら引っ込みつかないんじゃない？

藤 じゃじゃん！ あさひのドッキリQ&A。一年の「ニッケイに体育習いたい、組長はもう勘弁」
さんからの質問です。

新田 組長？ あ、山口先生？

江西 あ、言っちゃった。

加藤 もうひとひねり欲しいの。見たまんまっちゃうのはいけん。

藤 先生は花岡高校が初めての勤務先なんですか？

有賀 ああ、私だったらもっと見てる側のためになる番組にするのにな。

江西 ためになるって？

有賀 (立ち上がって) 学校内の問題を掘り下げて、ぼーっとしている生徒をたたき起こすんだよ。

江西 学校内の問題って？

有賀 ほら、ここにもおとぼけがひとり。

江西 なら、そういう企画してくださいよ。

有賀 企画しても速攻でボツにされるんです。報道のなんたるかが分かってないんだよね、あさひさんは。

藤 新田先生の好きな食べ物を教えてください。

新田 なんでも食べるからなあ。あえて言うならハヤシライスかな。

「ハヤシライス」という単語が出た途端、報道部に緊張が走る。江西は発言を制止しようと、モニター室から必死でジェスチャーを送っている。

新田 あ、この学食のハヤシライスって値段の割に量も多くておすすめですよ。(江西が手を振っていると勘違いして手を振り返す)

江西 (新田の勘違いに苛立って) そうじゃなくって！

新田 学食のおばちゃんにはしょっちゅう余り物もらって助かって……(周囲の焦りにやっと気づいて)もしかして、まずかったですかね？ ただでもらってるってのは。

江西 ハヤシライスはまずいよニッケイ。

有賀 いるんだよね、こういう不用意な発言をしちゃう教師って。

有賀の携帯電話の着信音が鳴る。

江西 (有賀に) ちょっと、本番中ですよ！

有賀 (無視して電話に出る) はい有賀志良。……学食で騒動？ (メモをとりながら) うん、それで？
……ソース？ わかったすぐ行く！ (電話を切る)

江西 何ですか？

有賀 ちょっと学食行ってくる！ (メモ用紙を持って、急いで退場)

江西 ちょっと志良先輩！ 本番中なんですけど！

藤 続いての質問は二年の「ニッケイラブラブテニス部員」さんから。ずばり、恋人はいるんですか。

新田 こいびとお？ 恋人はテニスだな。

藤 ほんとですか？ みんな期待しちゃいますよ。

新田 なにを？

加藤 わしものお、恋人は新聞じゃあ。報道部の顧問らしいじゃろ？

藤 報道部のリサーチによると、(フリップを出して) 新田先生は花岡高校の「恋人にしたい男ナンバー1」「旦那様にしたい男ナンバー1」ということですよ。

加藤 わしものお、(フリップを出して) 「置物にしたい男ナンバー1」の地位をもう五年も死守しちやるぞ。

新田 はあ、置物ですか？

有賀が走ってスタジオに入ってくる。有賀は藤に速報の原稿を渡すと、モニター室に降りる。

藤 (原稿を見て) 速報です。先ほど学食でテロ行為がありました。被害者は日替わり和風定食を食べていた生徒七人で、鯖のみそ煮にデミグラスソースが振りまかれた模様です。七人は「お袋の味が汚された」と口々に怒りを訴えています。一方、居合わせた生徒の証言によると、犯人は覆面をつけた三人組で、「和食派は地獄へ落ちろ」などと口にしており、このテロは和食派を狙った洋食派テロリス……(途中で言うのをやめて) 失礼しました、以上です。詳しい情報が入り次第、追ってお伝えします。

有賀 何、今の。(インカムで)最後まで言ってください!

江西 字イ汚くて読めなかったんじゃないんですか?

新田 (加藤に) どういうことですか。

加藤 新しい試みじゃねえ。意外に合うんじゃないかね。

有賀 (インカムで) あさひさん、江西景がフリップ持って入ります。

江西 え、私ですか?

江西、学食戦争のフリップを持ってスタジオへ。

藤 新田先生のように、和食派と洋食派の対立、いわゆる学食戦争についてよくご存じない方のために、ここで簡単にご説明いたします。本校の伝統ある学食も生徒数減少のあおりで、献立大幅削減の危機を迎えています。とりあえずのところ、一品のみ削減ということで話は落ち着いたのですが、どの一品を削るかというところで、学校が、和食派と洋食派の二つに割れ、再び大論争となつていきます。

加藤、解説の途中から眠ってしまったている。

有賀 上手いねえ、こういう解説は。(インカムで) あさひさん、カトちゃんが船こいでます!

藤、テーブル下で加藤の足を踏み、腕でさりげなくはたく。加藤、慌てて起き、微笑む。

藤 和食派はハヤシライスを削るべきだと唱える前期生徒会長を中心とするグループ、洋食派は後期生徒会長を中心とする日替わり和風定食削除派です。この対立の悪化によって先程のようなテロ行為が起こったと思われまます。

新田 (わけが分からない様子で) テロ?

藤 はい、テロです。

新田 で、ソース？

加藤 食べ物の恨みは怖いっっちゃうからのお。

江西はモニター室へ戻る。

新田 （自分が先ほどハヤシライスが好きだと言ったことに思い当たり）あ、あの、僕は、ハヤシライ

スだけじゃなくて、和食も好きだから。何でも食べちゃうから。

有賀 何を、今更。

藤 ちなみに報道部員は、中立を維持するため、毎日お昼はお弁当を持参しています。

有賀 意味ないと思いますけど。

加藤 わしも、愛妻弁当じゃけえのお。

江西 と言うより、愛ババ弁当？

有賀、「のこり30秒」のカンペを掲げる。

藤 早く解決するといいいですね。（カンペに気づいて）それでは、今日の最後の一言は、新田先生にお
願います。

新田 僕は、ひとりひとりを大切にしたいって思ってる。一緒に悩み、一緒に考え、一緒に学べる教師
でありたいから。じゃあ、よろしく。（決めポーズ）

藤 今日新田圭祐先生をお招きしてお送りしました。報道センター123でした。
有賀 カットー。

放送終了とともに、スタジオ内の照明が落ち、モニター室に切り替わる。藤、新田、加藤がモニ
ター室へ降りてくる。

藤 新田先生、今日はありがとうございました。

江西 先生、さわやかな笑顔、最高でした。

新田 じゃあ報道部、部活がんばれよ。(退場)

藤 はい。また宜しく願います。

江西 私、投書箱取ってきます。(退場)

有賀 (江西に) どうせ何も入ってないよ。

藤 お疲れ、志良。

有賀 お疲れ様です。(デスクで何か書いている)

加藤 お疲れさん。明日は、出張でおらんから、任したけえの。

藤 了解です。明日は新刊紹介と血液型占いになってますけど、いいですよね？

有賀 (ペンを置き、顔を上げて) 良くないです。もっと視聴者に提言できる番組にすべきです。

加藤 (頷き) そうじゃねえ。それもええね。

藤 先生。志良にのせられちゃったらまた、大失敗しちゃいます。

有賀 それ、どういう意味ですか。

加藤 失敗もええんよ。ええ勉強になる。

有賀 はい。

藤 でも、また教頭先生に……。

有賀 くそ、カニ玉！

加藤 じゃ、がんばりいさんよ。(退場)

有賀 あさひさん、これ、新しい企画なんですけど。(企画書を藤に渡す)

江西 投書箱を持って登場。投書を読んで、突然吹きだす。

藤 なに景、なんかおもしろいのあったの？

江西 「この前の心理テストでラッキーカラーがピンクだと言われたので全身ピンクで告白したら、
有賀 ばっかじゃねえの。」

江西 『お前きもいんだよ』と言われました。藤さん、どう責任取ってくれるんですか。いい加減なこ
とやわないでください」

藤 (投書を奪い取って) なんで私が責められなきゃいけないの？ 心理テスト作った人に言ってよ。
遊びでしょ？ 本気にしないでよ。

藤、投書をくしゃくしゃに丸めて投げ捨て、江西がキャッチ。

藤 ほかに入ってないの？

江西 あ、はい。

有賀 みんなどうでもいいんですよ。

江西 明日の占いもやめときます？

有賀 そうですよ。占いなんてくだらないことやめましょう。私の企画でお願いします。

藤、江西、企画書を覗き込む。

藤 特集「学食戦争に国際情勢を見る」。

有賀 はい。私、気づいたんです。学食戦争は宗教戦争に通じるところがあるんです。

藤 なにこれ。

有賀 ちょっと聞いてくださいよ。食べ物好き嫌いも宗教も、個人的な問題じゃないですか。どっち
がおいしいとか、どっちがたいたいとかいうことなんて、意味のないことなんです。それを視聴
者に気づかせるんです。

藤 「がくしよく」、「しゅうきよう」？ ちっちゃい「よ」しか合っていないよ。
有賀 いやいや、「し」も合ってますよ。って、そうじゃなくて！

藤 何で話がここまで飛躍しちゃうの？

江西 でも戦争ってことは同じだし、実際テロも起こったわけだし。

藤 違うよ。学食戦争も今日のテロも全部こいつの勝手なネーミングなんだよ。(思い出して)そうよ、志良、なにさっきの速報は！

江西 速報？

有賀 そうですよ、なんで一番大切なところ削るんですか。

藤 「このテロは和食派をねらった、洋食派テロリストの卑劣極まりない犯行とみて間違いありません」？ ……こんな不確かなこと、言えるわけじゃないでしょ！

有賀 被害者は和食派、振りまかれたのはデミグラスソースとなれば明らかじゃないですか。デミグラスソースっていったらハヤシライスですよ。ハヤシライス。

江西 いや、めちやめちや短絡的です、志良先輩。

藤 あのね、いつも言うようだけど、あなたの考え方は突飛すぎるの。

有賀 いええい。よく言われます、独創性に富んでるって。

藤 ちよつとは、へこみなよ。

有賀 え？ 褒められてるのに？

藤 褒めてないから。もつといるんなことを考えて、少し離れて自分の企画を見てもらんよ。

有賀 (物理的に離れて、自分の企画書を眺め) 最高ですね。

藤 ふざけないでよ。あんた、うちの部つぶす気？ この間も「校内ダメ教師ランキング」つけようとして教頭に大目玉食らったばかりでしょ。

有賀 「ダメ教師ランキング」じゃありません。「授業評価」です。しかし、あれは未だに納得できませんね。

江西 カニ玉、志良先輩のこと目の敵にしますもんね。

有賀 権威を恐れてはならない！ 私たちは、挑戦者なのだから！ (某ドキュメンタリー番組のテーマソングを歌う)

江西 (某ドキュメンタリー番組のナレーションを真似て) 報道部員は立ち上がった。教頭の圧力には

屈したくなかった。

藤 (小芝居で盛り上がる二人の頭をバインダーではたいて) とにかく、明日は新刊紹介と血液型占いやるからね。

藪下登場。

藪下 失礼します。

有賀 藪下会長、さっきのテロについてどう思いますか？

藪下の所へ駆け寄る有賀を、藤と江西が追いかける。藤は有賀と藪下の間に割って入り、江西は有賀を羽交い締めにする。

藪下 そのことについてなんだけど、これ。(藤に犯行声明文を差し出す)

藤 (犯行声明文を受け取り) 何これ？

藪下 さっき学食で見つけたんだ。

藤 「洋食の良さを世に知らしめ和食派を撲滅すべく今回の犯行に及んだ。思い知ったか藪下め！」

江西 犯行声明！

有賀 ほら！ やっぱり洋食派の仕業じゃん。私の考えは正しかった！

藤 志良、洋食派って証拠はどこにもないでしょ。

藪下 藤さん！ 明日の番組はこれでいこう。「藪下純一郎、テロを語る」

有賀 それこそ私が求めていた番組！

藪下 (有賀に) 君、僕のファン？

有賀、かなり嫌そうな顔で否定する。

藤 ……タイトルを少し変えて、「検証く鯖の味噌煮テロ事件く」なら。
有賀 報道はそうでなきや。

藪下 テロの真相が暴ければ、満足だよ。

江西 なら阿南会長も呼ぶべきですよね。

有賀 いいじゃん、面白くなりそう！

藪下 そんなの呼ぶ必要ないよ。

藤 (江西に) 阿南さん呼んできてくれる？

江西 はい。(退場)

有賀 (犯行声明を手にとって) 藪下会長、これって学食のどの辺りで……

藤、有賀の襟を掴み藪下から遠ざける。

藤・有賀 (睨み合って) ふん！

藤 藪下君、学食戦争、どうしてこんなにこじれちゃったんだと思う？

藪下 そりゃあ、全部あいつのせいだよ。

藤 あいつって？

有賀 阿南瑞穂後期生徒会長でしょ？

藤 阿南さん、どうして日替わり和風定食じゃなきやいけなかったのかな。

藪下 (藤を無視して) そもそもなんだよ、ハヤシライスって！

藤 何って言われても。

藪下 なんなんだ、林って……？

有賀 確か発案者の名前でしたよね？

藪下 あんな中途半端な味のどこがいいんだ？ どう見ても色の濃いカレーって感じなのに辛くないし。阿南瑞穂が出てくる前は、ハヤシライスなんて売り上げワースト1だったんだぞ。

江西、登場。

江西 いませんでしたあ。阿南会長、今日休みみたいです。

藪下 あやしい！

藤 じゃひとまず延期にしようか。

有賀 え、絶対明日やるべきです。報道は鮮度が命ですから。

江西 それより、学食、凄いことになってましたよ。

藤 え？ 何？

有賀 まさか報復テロ？

藪下 え、ちよつと。

江西 いやあ、なんか、ハヤシライス食べたいってニッケイファンが押しよせて、ハヤシライスが売り

藪下 されちゃったらしいんです。

藤 ああ、おしまいだあ。報道部のせいですよ。藤さん、どう責任をとってくれるんですか。ニッケイ使ってハヤシライスの宣伝なんかして！ 中立が聞いて呆れるよ。明らかな情報操作じゃないか。(すごい剣幕で藤に迫る)

藤 確かにニッケイの好みについては調査不足だったことは認めるけど……。

有賀 ニッケイが勝手に口走ったことですから。そのかわり、明日の番組では和食派の言いたいこと言

っちゃってかまいませんよ。報道を制すものは世界を制す。

有賀、再び江西に羽交い絞めにされる。

藪下 ああ、和食の良さを全校生徒に説いてやるよ！(芝居がかった口調で)生徒の皆さん、思い浮かべてみてください。あの真っ白なご飯、こんがり焼けた秋刀魚、季節の野菜が調和した食の総合芸術ともいえる味噌汁……。日本の伝統的な食文化を代表するこの和風定食に、欧米の食肉文化に汚染されたハヤシライスが勝るわけはありません。我々日本人は、(藪下に謎のスポットライ

ト) 和食を求めるように、DNAに刻み込まれているんだあ！
有賀 報道万歳！

江西 えーっ、ちよつと志良先輩！
藤 ちよつと志良！

暗転。

#第二場 学食戦争

九月十二日。スタジオには藪下と藤、近藤。モニター室には有賀と江西。スタジオのテーブルには犯行声明文とウスターソースのボトルが置かれている。

藤 (テーマソングとともに) 十二時三十分になりました。報道センター123。みなさん、お昼のひととき、いかがお過ごしですか。本日は、予定を変更しまして「検証く鯖の味噌煮テロ事件」をお送りします。それではまず、学食のメニュー削減阻止に多大な貢献をしてくれました前期生徒会長、藪下純一朗さんにお話を伺います。

藪下 (芝居がかった口調で) 昨日、大変遺憾なことがありました。心ない洋食派によってテロ事件が起こされたのです。

江西 洋食派って。(有賀に) いいんですか？
有賀 ちよつと黙って。

藤 藪下会長、昨日のテロ事件の犯人はまだ特定出来ていませんが……。
藪下 (遮るように) いえ、洋食派による犯行であることは明らかです。

藤 報道部では、テロ事件を検証するため、科学同好会代表近藤利查さんに来ていただいています。
近藤 (声明文を示し) これは、犯人が残したと思われる声明文です。

藪下 私が発見しました。

近藤 (ビニールに入った毛髪を出して) この中から髪の毛の毛が一本、検出されました。

藪下 え？(驚いている)

藤 わりと短かめの癖毛ですね。

藪下 ちよつと、近藤さん。(「余計なことを言うな」という圧力)

近藤 (圧力を受けて) いや、犯人のものと特定できたわけではありませんが……。

藪下 (近藤を遮るように、テーブルに置かれたソースのボトルを取り) このソースは僕の下駄箱に入

れられていたものですよね。

近藤 はい、ウスターソースです。

藤 近藤さん、鯖のみそ煮に加えられていたのはデミグラスソースでしたよね、犯人はどうしてウス

ターソースを……。

藪下 (遮って) ソースです！ これは、先日校内をデモ行進したことで問題となった、洋食派の過激

派グループ「ラブ&ソース」からの挑戦状に違いありません！ 我々は、テロには屈しない！ こ

れはもう戦争だ、イツツアウオー！

阿南 たのもー！

奇声を上げる阿南親衛隊とともに、トレードマークの扇子を持った阿南がスタジオに乱入。近藤はスタジオから追い出され、藪下はスタジオ内に捕らえられる。

阿南 生徒諸君に告ぐ！

江西 阿南会長！

阿南 我々後期生徒会はこの不当な報道に反撃するため、スタジオジャックを宣言する！

有賀 よしこい、洋食派！

江西 (インカムで) あさひ先輩、どうしましょう。

藤、江西と有賀を手で制止する。

阿南 (扇子を翻しながら) けつ、なにがテロだい、戦争だい。ちゃんちゃらおかしくてへそが茶あ沸かしちまうよ!

近藤 洋食派なのに、江戸前。

藤 (二人の間に入り) ちよつとよろしいですか。

阿南 なに？

藤 たしかに、阿南会長がおっしゃったとおり、洋食派の意見抜きに検証を進めるのは、不当というものです。

阿南 そうだよ。

藤 そこで、(カメラ目線で) 番組の内容を急遽変更しまして「緊急特別生討論」和洋両トップが学食戦争を語る」をお送りしたいと思います。

阿南 いいねー。

有賀 これこそ報道のあるべき姿!

阿南の指示で親衛隊が藪下を解放。藪下と阿南は席に着く。

藤 それでは、早速討論を開始したいと思います。

阿南 (挙手と共に) はい。

藤 洋食派代表・阿南後期会長。

親衛隊、歓声を上げる。

阿南 これは、明らかに濡れ衣であります。
有賀 濡れ衣。

藪下 異議あり。我々は確かな証拠を基に、事実を述べています。

阿南 異議あり。ここに挙げられているものが確かな証拠と言えるのでしょうか。こんなソースだけで、洋食派の犯行と決めつけるのはいささかお粗末であります。

江西 確かに。

藪下 異議あり！ ではその犯行声明はどう言い訳なさるつもりですか。

有賀 どうする、阿南。

阿南 異議あり！ 何者かによる悪質な嫌がらせであります。

有賀 嫌がらせ。

藪下 (机を叩き立ち上がり) 異議あり！ そんなものはただの言い逃れであります！

阿南 (机を叩き立ち上がり) 異議あり！ それこそこじつけであります！

藪下 異議あり！

阿南 異議あり！

藤 (机を叩き立ち上がり、響き渡る声で) はい！ 問題を整理するためにも、話題を少しかえてみましょう。

有賀 お見事。

藤 それでは、学食戦争と呼ばれるまでに発展した、意見の対立の原因について両会長のお考えは。

藪下が即座に挙手。阿南は一瞬遅れる。

藤 藪下前期会長。

藪下 阿南会長が削減メニューを勝手に変更したことが原因です。

阿南 とんでもない。藪下会長がワンマンで削減メニューを決定したからでしょう。生徒会はずでに改選されたのですから、前期生徒会長が口を出すのは越権行為です。

藪下 前期生徒会の任期は九月末までです。

江西 そうなんだ。

藪下 越権行為はあなたの方でしょうか？

有賀 確かにね。

阿南 （無視して）そもそも前期生徒会長は、和風定食の幻想に固執し、ハヤシライスの魅力に気付いていません。

有賀 すり替えたな？

藪下 和風定食はハヤシライスより健康的です。

阿南 和食は塩分が大量に含まれており、日本人の胃がんの発症率の高さは和食が原因だというデータもありますか？

有賀 ほほおん。

藪下 和食には野菜が豊富に使われています。

阿南 ハヤシライスは大量のタマネギとトマトを用い、血液さらさら効果、いらいら防止効果等に優れています。ご存じありませんでしたか？

有賀 やるじゃん、阿南。

阿南親衛隊、歓声をあげる。

藪下 （阿南親衛隊に）ちよつと君達……！

阿南 はい、続けて。

藪下 彼ら（阿南親衛隊）の退場を求めます。討論の場に取り巻きがいたのでは公平さに欠けます。確かに。

藤 （阿南親衛隊に）ご退場願います。

阿南親衛隊退場。

阿南 相変わらず、ケツの穴のちっちゃい男だね。

有賀 ケツの穴！（引き笑い）

藪下 和食は我々が永く愛してきた、日本の伝統的な食事であり、文化の象徴である。

阿南 先進国最低の自給率を誇る日本が、輸入食材を使って作る伝統食など、何の意味もない。

有賀 ははあん。

藪下 だからそれは、いやあのおそのお、和食は、その……

阿南 （笑う）さすが、スローガンだけの人だ。

藪下 （阿南を無視してテレビ目線で）我々は、メニューの大幅削減を一品に抑えました。

阿南 学校が約束したのは、段階的に減らしていくことで、一品でおしまいってことじゃないだろう。

江西 ええっ？

有賀 だましたな！

藪下 とりあえず、一品のみとするまでも大変な労力が必要だったのです。

阿南 大変な労力ってねえ、口だけであんたは何にもしてないんだよ。そもそも生徒会長やったのも推薦に有利だからって言ってたじゃないか！

有賀 最低！

藪下 （カメラに向かって熱い視線でポーズを決めながら）生徒の皆さん、お聞きください。

有賀 出ました、ポーズ。

藪下 僕が生徒会長に立候補した最大の理由はこの花岡高校に新たな活力を生む改革を起こしたいと思っただけです。

有賀 まあ始めたんです。

藪下 それは何度も語ってきましたよね。

有賀 はい、聞きましたあ。

藪下 改革はゆっくりと、しかし確実に実行されてきました。

有賀 実行お？

藪下 僕は、皆さんの協力的な態度に感動しています。

阿南 また、語りでごまかそうとしてるな？ この二枚舌め！

江西 厳しい。

藪下 ……。(ため息)

有賀 諦めたか？ 藪下。

藪下 阿南会長、あなた、僕に対する個人的な感情から生徒の皆さんを振り回していませんか？

阿南 は？ 何言ってるんの、あんた。

藪下 (ポケットからラブレターを出して) 朗読します。『親愛なる純一郎様へ 昨日貴方の夢を見ました。貴方は白いライオンに乗って私を迎えにきてくれた王子様。そしてあなたは……』

江西 (藪下を指さし) 王子様？ あれが？

阿南 やめてえ！

有賀 花岡のお局、阿南瑞穂返り討ち！

江西 うまい！

藪下 おまえの写真、鼻毛描いて捨ててやったよ。

阿南 ひどおい！ あんなに喜んで私の写真にキスしてたくせにい。

藪下 それはお前がこんな女だつて知らなかったからだ！

阿南 それはこっちのセリフだ！ ちょっとみーちゃんの耳踏んだからってあんなに怒らなくてもいいじゃん！

藪下 みーちゃんは耳が命なんだー！ (地団駄踏みながら我を忘れて叫ぶ)

阿南 (大きくため息をつきカメラ目線で) 全く若気の至りなのです。こんな価値のない男と付き合っ
てしまい、青春の貴重な日々を無駄にしまいました。

有賀 毒舌。

阿南 知れば知るほど、口先だけの中身のないこの男に、

江西 言っちゃった。

阿南 どうして血迷ってしまったのでしょうか。

江西 かわいそう。

阿南 しかし、私はこの過去の過ちをバネに全身全霊で花岡高校のために働きたいと考えています。

藪下、ポケットからハンカチと間違えて覆面マスクを取り出し涙を拭く。

藪下 ひどおい。中身のない男なんて。あんなに好きだって言ってたじゃないか、瑞穂お……！（泣き崩れる）

阿南 おやおや、涙は男の最大の武器ですかあ？

藪下 僕は……。〈覆面マスクで顔を拭く〉

江西 〈覆面マスクを指して〉あの赤いの、何ですか？

藪下 僕は、例えどんなに短い間であっても、好きになった女性のことをこんな風に侮辱なんてできません。

有賀 ハンカチじゃない？

藪下 僕は、阿南会長の人間性を疑います。

有賀 穴空いてる。

藪下 こんな人間味の無い人にあなたの学校を任せることができますか？

阿南 人間味がないのはあんだら。転んだ恋人よりぬいぐるみの耳を心配するなんてねえ。

江西 ぬいぐるみ？

阿南 そもそもあなたが私のスカートのすそを踏んづけたから、転んだんだ。なのに、あなた「ごめん」とも言わずに、「僕のみーちゃんになんてことするんだあ！」最低、最悪の変態野郎！

有賀 変態！

藤 〈藪下の持っている覆面マスクを指さして〉あ！ パンツ？

有賀・江西 パンツ？

阿南 あんたそこまで……。

藪下 〈焦って〉違いますよ。マスクですよマスク！（覆面マスクをかぶって見せる）ほら、かぶるとマスクじゃないですか。

有賀・江西 ああ、マスク。

江西 納得しました。

藤 会長はそれで何をなさろうと？

阿南 あんたがテロリストだったのね？

有賀・江西 テロリスト？

近藤、スタジオに飛び込む。

近藤 違います！

有賀 近藤さん？

近藤 これは……証拠物件です。

有賀 証拠物件。

藪下 そうですよ、これ、証拠物件ですよ。

近藤 これは昨日、藪下会長から調査の依頼があったマスクです。

藪下 はい。

有賀 証拠品、ポケットに入れるか？

江西 確かに。

近藤 (藪下の頭をつかみ) 皆さん、このシミ、注目していただけますか？

藪下 このシミ？

藤 何かシミがありますか？

近藤 このシミ、成分を調べましたところデミグラスソースであることが分かりました。

藤 ということは……。 (阿南をみる)

藪下 阿南会長。

阿南 だから違うって。

近藤 さらに、私の調査によりますと、(藪下の頭を藤に向けて) これ、ちょっと臭っていただけます

か？

藤 (臭って) なんかつーんとしますね。

近藤 そう、刺激臭。

有賀 藪下の汗の臭いだろ？

近藤 この香りは……。

江西 ハヤシライスの臭い？

近藤 大手スーパードで大量販売されている洗髪剤(一瞬考えて)「ガッツヘア モーイチドフイニッシュ

シャンプー」のものであると特定できました

江西 私、使ってます。

藪下 阿南会長、そういえばあなた「ガッツヘア」の愛用者でしたよね？

阿南 はあ？

藤 そんなことまでご存じなんですか？ (ドン引き)

暗転。

#第三場 婚約報道

九月十四日。テニスコートで堤と岩瀬が会話している。そこへマイクを持った藤とカメラを持った江西が登場。

江西 (堤と岩瀬に) ねえ、新田先生は？ テニスコートだって聞いたんだけど。

堤 今頃二人の世界でえす。(岩瀬と笑いあう)

江西 二人の？ もしかして、もうみんな知ってるんですかね。スクープだと思ったのに。

藤 ま、そういうこともあるよ。

岩瀬 (堤に) ねえねえ、撮って撮って。「ミチル、僕は君のことが。」「新田先生、私も……」
藤 ねえ。

岩瀬 あ、はい。

藤 つてことは、先生は今、彼女と？

岩瀬 彼女？ (堤に)「彼女」だって！ まあ、そんな感じだよねえ。

藤 じゃあ今日はもう部活に戻って来ないのかな。

岩瀬 いや、そんなことはないと思いますけど……ねえ？ (堤に)

堤 分かんないですよ。お姫様抱っこだもん。(岩瀬と笑いあう)

藤 何それ？ 詳しく聞かせてよ。

岩瀬 (携帯を掲げて) あ、あたし、ムービーとったんですよ。見ます？

新田登場。

新田 おい、お前ら、ちゃんと練習しとけって言っただろ。

藤 新田先生、お時間よろしいですか。

新田 ああ、また報道部か。どうした？

藤 先生、単刀直入にお聞きしたいんですが、ご結婚されるというお話は、本当なんですか？

新田 いや、それは、その。

堤と岩瀬、驚いて顔を見合わせる。

藤 高校時代からのお付き合いだとか。

新田 そんなことないよ。

藤 報道部のリサーチによると、平成●年度周南高校女子テニス部のキャプテンで、長身でスマートな美脚の持ち主だそうですね。

新田 ガリガリに痩せてるだけだよ。

藤 ということは、本当だったんですね！

新田 違うよ、高校時代はキャプテン同士で馬鹿言い合ってただけで……。

藤 ではつい最近劇的な再会を果たされたと。こういうわけですね？

新田 いや、だから、もういいじゃないか。そんなことはどうだって。(対応に困っている)

放送 『新田先生、新田先生。至急保健室までお願いします』

新田 あ、悪い。(テニス部に) お前らちゃんと練習しとけよ。

藤・江西 ありがとうございます。

新田退場。

岩瀬 信じらんない。

堤 絶対裏切り。

岩瀬 ミチル、やめちゃうよ。どうする？

藤 あのさ、さっき言ってたムービーだけど、見せてもらっていい？ 彼女写ってるんだよね？

岩瀬、堤と顔を見合わせ、しゅしゅ携帯電話を差し出す。藤、二人の様子に気づいて江西と顔を見合わせる。

江西 (携帯電話の画面を見て)これって、テニス部の子？

岩瀬 うん。E組の納谷ミチルだけ。

藤 ちょっと、この抱き方問題じゃない？

暗転。

井第四場 恋泥棒

夕暮れの廊下。新田と納谷が立っている。

納谷 何で結婚なんかしちゃうんですか？

新田 (素振りをしながら) いや、何でって言われても……。

納谷 私、一生他の人のことなんて好きになれません。

新田 お前何言ってるんだよ。よし、じゃあもう帰るぞ。

納谷 好きなんです。……先生のこと。

新田 えっ？

納谷 私、先生も、私のこと大切にしてくれてるって思っていました。

新田 そりゃあ、テニス部のホープだし、大事に思ってるよ、納谷のこと。でもそれは生徒として……。

納谷 (かぶるように) じゃあ、どうして？ 私じゃ駄目なんですか。私と結婚してください。

新田 何言ってるんだ。そんなことできるわけないだろう。

納谷 大人になるまで待ってください。

新田 そういう問題じゃない。あんな、納谷…… (納谷の肩に手を置く)

納谷 (新田に背を向けて) なら、部活やめます。

新田 何、言ってるんだ、大会まであと二週間なんだぞ。

納谷 学校もやめます。

新田 お前、何言ってるのか分かってるのか？ 納谷。おい納谷、納谷！ (納谷の腕をつかみ、揺する)

新田、江西と目が合う。

新田 (納谷の腕をパツと放して) とにかく、もう遅いから気をつけて帰るんだ、いいね。(退場)

納谷 (新田の背中に向かって) 先生、私のこと、見捨てるんですか? (泣き崩れる)

江西 (納谷の側に駆け寄って) ねえ、大丈夫?

納谷 見てたんですか?

江西 あ、ちよつとだけ。

納谷 最悪。

江西 あの、泣き寝入りは駄目だよ!

納谷 ほっといてください。(退場)

江西 私、力になるから!

暗転。

井第五場 疑惑

九月二十日。スタジオに加藤、藤。モニター室に江西、有賀。

藤 (テーマソングとともに) こんにちは、報道センター123です。今週は「今考える、学校の安

全」と題しまして、身の周りに潜む危険について検証していきたいと思います。本日は、学校内におけるセクシャルハラスメントについて考えていきます。去年の周南中学校での事件が記憶に新しいですが、加藤先生、先生は近年マスメディアを騒がせている教師によるセクハラ問題をどう思われますか?

加藤 そうじゃねえ。まあ、マスコミは好きじゃねえね、教師やら警察官が問題を起こすんが。

有賀 はあ?

加藤 ほとんどの先生方はよう仕事しちよつてと思うが。

有賀 おいおい、あんたも教師をかばっちゃうのか?

藤 加藤先生、そういった意識の低さも、問題解決を阻んでいる一因だとは考えられませんか？

加藤 はあ、すまんねえ。そうかもしれないねえ。

藤 では、本校は大丈夫なのでしょう？

加藤 そりゃ、大丈夫じゃろ？

有賀 （江西に）V用意できてる？

加藤 じゃないかね？

藤 実は、本日報道部には衝撃的な映像が寄せられています。まずはこちらをご覧ください。

有賀 （インカムに向かって）V入ります。

下手に設置された小フレーム内に、納谷を抱えた新田が登場。顔にはモザイクのようなマスクをつけている。

江西 ニッケイに話聞けなかったけど良かったんですね。

有賀 いいんだよ。報道は弱者の味方なんだから。あれからその子ずっと休んでるんだよね？

江西 はい。あれから毎日、隣のクラスのぞいてみるんですけど、誰も理由知らないし。

有賀 ニッケイだって、なにかやましいことがあるから何も言わないんだよ。（インカムに向かって）V
終わりまーす。

小フレームとともに新田、納谷退場。

藤 報道部では、セクハラ疑惑について生徒の皆さんの意見をお待ちしております。

加藤 いやいや。ううん。そうじゃのお。よう話を聞いてみんなにやあいけんのお。

阿南が勢いよくモニター室に飛び込んでくる。

阿南 ちよちよちよちよちよつと報道部、今のニュース、本当？

江西 いやあ……（有賀と顔を見合わせる）

阿南 「ニッケイだ！」ってみんな騒いでるよ！

江西 （有賀に向かって）ばれてます！

有賀 ああ、いいよ。

阿南 あ、やっぱりそうなんだ。よしてきた、後は任せて！（スタジオに乗り込もうとする）

江西 （阿南の前に立ちふさがって）やめてください！

江西の制止を無視して阿南がスタジオに入る。

有賀 （インカムに向かって）阿南会長入ります。

江西 え、ちよつと！

藤 ここで、この一件に関して、後期生徒会長からのコメントです。

江西 （有賀に向かって）いいんですか？ あれ。

有賀 いいよ。

江西 でも。

阿南 （芝居がかった口調で）またしても、教員による不祥事です。それも我が愛する花岡高校でこの

様な破廉恥なことが起こっていたなんて、衝撃以外のなにものでもありません。教師の立場を乱

用した人権侵害は生徒会としても断固糾弾していく決意です。

有賀 阿南会長も言うなあ。

江西 ちよつと言い過ぎじゃないですか？

有賀 これくらい言わなきゃ効き目ないよ。

新田がモニター室に入ってくる。

新田 報道部。君たちは、一体どういふつもりなんだ？

有賀 (ゆつくりと立ち上がって) 放送されてまずいことでもあるんですか？

新田 何だと？

有賀 じゃあ、生で弁明していただけますか。

新田 ああ、不当な疑いをかけられて黙っているわけにはいかないからな。

新田、江西に誘導されながら、スタジオ内に入っていく。

有賀 (座り直し、インカムに向かって) あさひさん、ニッケイの弁明入ります。

藤 ニッケイ？ (動揺するが瞬時に切り替えて) 生徒の皆さん、突然驚かれるかもしれませんが、先程のVTRに映っていた先生ご本人が生出演をして弁明をされるということです。新田先生、真相をお聞かせいただけますか。

新田 僕は、この報道部に対して本当に失望している。この番組は何だ？ くだらないワイドショーの真似事か？

有賀 なんだと、弱者の声を取り上げるってのが報道の精神なんだぞ。

藤 報道部では、新田先生のコメントがいただけにままだけにありますが、ショックで欠席を続けている生徒もいるという事の緊急性を考慮し、この異例の放送に踏み切りました。いかがでしょう。先生は教師という立場を利用し、過度な接触を要求したことはないと言言していただけますか？

新田 ああ。僕は自分の行動に恥じ入ることは何も無い。

阿南 女生徒をあんな風に抱いておいて、釈明の余地はないと思えますけど？

新田 阿南、お前冷静に話を聞け。

阿南 冷静に？ よくそんなことが言えますね。

新田 だから、彼女は……。

阿南 (新田を扇子で指して) 彼女。

新田 (阿南の腕を押さえ) 人の揚げ足を取るな。

阿南 (大げさに反応して) きゃあ、セクハラです。

新田 何言ってるんだ。さっきの映像は、練習中に部員が貧血で倒れて、それで……。

藤 では貧血で倒れた生徒を運んだだけ、ということですか？

新田 ああ、そうだ。

阿南 あ、思い出した。新田先生、この前女子更衣室に突然入ってきましたよね。

新田 あれは、チャイムが鳴っても喋っていつまでも更衣室から出てこないからだろう。

阿南 外から「早くしろ」って声をかければよかったですか？

新田 そりゃそうかもしれない。まあ、頭に来てたからな、あの時は。

阿南 自分の非を認めるんですね。

新田 だから、俺は、セクハラなんてしてない。(藤に) 誰が言い出したんだ、こんなこと。

阿南 何されるか分からないのに、情報源明かせるわけ無いじゃないですか。

新田 阿南、お前は黙ってる！

阿南 そうやってすぐ力で黙らせる。(カメラ目線で) 生徒の皆さん、力を合わせて、理不尽な権威と戦

い続けましょう。

有賀 やばいな。タイムアップだ。これからがいいとこなのに。ニッケイ絶体絶命！

有賀、「のこり1分」のカンペを掲げる。

藤 (カンペに気づき) 新田先生には、もっとお話を伺いたいところですが、時間となってしまいました。

新田 最後一言だけ、先生。三十秒でお願いします。

僕は、誰に対してもやましい事なんてしてない。そりゃ、体育って教科の特性上、あるいはテニスの指導中に、体の接触があったかも知れない。でもそれをひとつひとつセクハラだって言われたらきりが無い。言葉は悪いかもしれないけど、君たちは、僕たち教師にとって大切な商品だ。商品に手を出すなんてプロじゃないだろう。僕は教師の仕事に誇りを持っている。信じて欲しい。

加藤 生ものを扱うのは難しいのお。

藤 真実はどちらにあるのか、報道センター123では今後も続報をお伝えしていきます。
有賀 カットー。

放送終了に合わせて、スタジオの明かりが消えモニター室に切り替わる。

新田 報道部、見損なっただぞ。

新田がいらだたしげにモニター室に降りてくる。遅れて藤、阿南、加藤が降りてくる。

新田 これが君たちの報道か。

有賀 私たちは権威に対して怯みませんよ。

新田 生徒を煽っているだけに見えるけどな。

藤 新田先生、ムービーの件、私たちの取材不足でした。すみません。

有賀 謝っちゃうんだ。部長がこれじゃあねえ。

江西 先生、私、テニス部の納谷さんと先生が話しているところ、見ちゃったんです。あれから納谷さん、学校に来てないし。……何があっただんですか？

新田 君たちの報道は、興味本位で人の心を覗き見することなのか？

阿南 でもそれなりのことがあったから、来られなくなってるんですよね。

新田 お前は……！

藤 後日改めてお話を伺いに行つてよろしいでしょうか。

新田 話すことは何もない。

加藤 新田さん、申し訳ありませんのう。

新田 （加藤に）これって学校でやるべき教育活動でしょうか。

加藤 すまんねえ。この子らも悪気があってやったわけじゃあないんよ。まあ、教師も生徒に叩かれて

新田 なんぼのもんじゃけえね。叩かれん教師はつまらんのよ。
どうでしょうか。失礼します。(モニター室を出て行く)

蟹江登場。新田、蟹江とはち合わせする。

蟹江 新田先生、あとで、よろしいですか。

新田退場。

藤 志良、あんまりとんがるの良くないよ。
有賀 だって……。

藤 とんがってたら人の本音なんて聞き出せないよ。

阿南 でも藤さん、それっておかしくない？

藤 黙っててください。うちの部活のことですから。

蟹江 (モニター室に入ってきて) 加藤先生、先生が付いていらっしやって今の放送は何ですか？ あまりにも度が過ぎているんじゃないやありません？

有賀 教頭先生、報道規制ですか？ 検閲ですか？ まさに権力の乱用ですね。

蟹江 あのね、これは、人権問題よ。

有賀 それは、こっちのセリフです。

蟹江 (ため息) まあ、加藤先生とゆっくり話してください。

加藤 はあ、はあ。よう、分かちちります。教頭さん、この子らも、いろいろ考えちりますよ。

蟹江 (大きなため息をつき、加藤には答えず) もう少し冷静に行動しなさい。あなたたちの無責任な言葉でたくさんの方が傷ついているのよ。

暗転。

＃第六場 噂

暗闇の中に噂話をしている生徒達の姿が浮かび上がる。

生徒 なあなあ、信じらんないよなあ。

生徒 え、なんかしそうな顔だったじゃん。

岩瀬 ミチルまた休みだよ。メールの返事もないし。

藪下 ニツケイのこと信じたいけどさ、例の水着の盗難、どうなんだろうね。

生徒 そういえば、この前新田が机に黒いものをこそこそ隠してた。

生徒 それってもしかしてさあ……。

生徒 きもお。

岩瀬 もう部活辞めない？ 先輩たちみんな辞めるってさ。

江西 テニス部女子、激減です！

藪下 あれ、ハヤシライス頼まないの？

生徒 だってニツケイの好物じゃん。

藪下 そうだよね。ニツケイのファンだって思われたくないもんね。

有賀 ハヤシライスの売り上げが落ちます！

阿南 なんで？ ハヤシライスとニツケイ、関係ないじゃん！

生徒 っていうか、その納谷さん？ 産婦人科で見たっていう人がいるんだけど。

生徒 妊娠？

生徒 そりゃあ、おろすだろ？

生徒 セクハラ教師の子供は産めないよね。

岩瀬 ね、ミチル、妊娠してたらしいよ。

生徒 あの子、学校、辞めちゃうらしいよ。
生徒 ニッケイは平気な顔で授業やってんの。
生徒 早く辞めればいいのに。

井第七場 ニューヨークの藤さん

放送時間外のモニター室。マイクを模したパペット人形「マイク君」を手にした藤が、ひとり遊びをはじめめる。

藤 こんにちは藪下さん、投票を前に和食派の結束はいかがですか。(藪下を真似て)「万全です。私たちの勝利は間違いないですね！」一方、洋食派の阿南さん、いかがですか。(阿南を真似て)「何

言ってるんだい、こつちだつて負けやしないよ！」ニュースキャスターの藤さんはどんなかんじですか。(突然自分に向けられたマイクに怯んだ様子で)「え？ 私？ なんかなにやっつてんだかって感じです。ぐしゅん」(腹話術で喋るマイク君が、鋭い口調で藤を問い詰め始める)先日のセクハラ報道をどう思われますか。「え？」ご自分の報道が与えた影響、どうご覧になりますか。「それは……」誰かをつるし上げることがあなたのめざす報道ですか。「いいえちがいます」では、あなたは一体どうしたいんですか。あなたは一体、何を目指しているんですか。「……」

江西、モニター室に入ってきて様子を伺う。

江西 あさひ先輩？

藤 (急に調子が変わって)はあい！こちらニューヨークの気温は零下三度。こうしていても息が白く凍ります。寒波の襲来で、昨日は三人の死者が出ました。私の心も凍り付きそうです。(鼻をすする)

江西 大丈夫ですか？

藤 はい、大丈夫です！ ご覧ください。この寒さの中、商魂たくましく、ホットアップルジュースを売るアラブ系のおじいさんがいます。ビジネスだけを考え闊歩しているかに見えるニューヨークカーたちも、あの湯気に誘われ、ついつい足を止めてしまいます。温かい飲み物をすすする時のほつとゆるんだ笑顔は、見るものの心をぽつと明るくしてくれます。以上、ニューヨーク、グラント・ゼロから冬の風物詩をお伝えしました！

江西 (調子を合わせて) ニューヨークの藤さん、厳しい寒波のまっただ中、屋外からの中継ありがとうございます。ございました。ちなみにこちらは九月下旬の日本です。暑さ、寒さも彼岸までと言われていますが、例年になく厳しい残暑が続いています。

藤 ……時差、半年？

江西 はい。

藤 ありえねえ。

江西 ですね。それにしても、うまいですね、あさひ先輩。寒いニューヨークが目に見えなくて、ちょっと涼しくなりました。

藤 夢なんだよねえ、報道に進むの。色んなことを伝えるんだ。ホワイトハウスやエッフェル塔をバックに中継とかしたいんだよ！

江西 いいですねえ……。

藤 でも狭き門なんだよね。もしかして今だけかな、こんなこと出来るのも。何やってんだろねえ、わざわざ先生たちに嫌われるようなことしてさ。でも、もつとなんか、自分たちにしかできないことをしたいんだよね。大人のコピーなんかじゃなくてさあ。(突然大きなため息) はああああ、でもやってることは、全部大人の真似事みたいな気がする……ぐしゅん。

暗転。

#第八場 真実は何処に

いつかと同じ夕暮れの廊下。納谷と新田。

納谷 先生、こんなことになってたなんて……。

新田 検査はどうだった？ ……医者は何て？

納谷 私が黙っててって言ったから？

新田 ……。

納谷 ごめんなさい、私のせいで。(そっと手をとろうとする)

新田、慌てて手を引つ込める

納谷 (しゃくり上げながら) すみません。

江西登場。

江西 (納谷に駆け寄り) ねえ、どうしたの？ また何かされたの？

新田 おまえは！

納谷 (江西に) もう、いい加減にして。あなたのせいでめちゃくちゃです。新田先生は何も悪くないのに。

江西 え？

納谷 先生に謝ってください。

江西 え？ 何で？ 私は納谷さんが泣いてたから……助けようと思って。

藤と有賀が登場。

有賀 学食のことカニ玉に聞くのって意味あるんですか？

藤 色んな角度からアプローチした方がいいでしょ。

有賀 何か、教師に媚びてるみたい。

納谷 (叫んで) 放つといってくださいって言ったじゃないですか。

藤と有賀、納谷の声で三人に気づいて駆け寄る。

有賀 新田先生、何したんですか！

納谷 違います。どうしてそんな風にしか見られないんですか。

有賀 新田の前だからって庇うことないんだよ。

納谷 私が勝手に好きになっただけなんです。私、先生に何もされてません。してほしくらいなのに。

一同 え？

藤 ちょっと待って。納谷さんはなんで十日も休んだの？ 新田先生とは関係ないの？

納谷 私、生理痛ひどいし、しょっちゅう貧血で倒れちゃうんで、精密検査するために、入院してたん

です。新田先生、何も言わないから……。

江西 (新田に) すみませんでした。

有賀 (新田に) 申し訳ありませんでした。誤報道でした。明日の放送で、訂正します。今日中に原稿

を持って伺います。

新田 もう少しちゃんと考えて欲しい。報道で人を殺すこともできるんだぞ。

新田、納谷退場。俯く報道部。

井第九場 私は謝れない

モニター室。藤、有賀、江西が言い争っている。

有賀　なんでカトちゃんなわけ。

藤　顧問だから、相談しなきゃ……

有賀　問題起きたときだけ頼るんだ。日頃は置物なのに。

江西　……

有賀　なんかどっかの放送局みたい。事情わかってない上の人出して「すいませんでした」って？
（藤を見て）どうするんですか。

藤　……

江西　すみません、私に変な風に思いこんじゃったから、こんなことになったんです。私が謝ります。

有賀　私が悪かったって言いたいんですしよ？　一刻の猶予もならないって言ったんだから。

藤　私が悪かったんだよ、確認もせずに放送に踏み切ったから。

有賀　明日の番組で、報道部全員が頭下げましょう。

藤　それで済む問題じゃない。

有賀　でも、謝る以外にないじゃないですか？

藤　私は……謝れない。

江西　なんで、あさひ先輩、今、自分も悪かったって。

有賀　誤報道したんだから、謝るのは当然じゃないですか。

藤　謝って、それでどうなる？　「反省してるんだ」って思ってもらえるよね？　謝った人ってそれ以上責められない。だから、どこの放送局もすぐ謝るんだ。それで、なかったことにしちゃうんだ。

有賀　私達は違います。

藤　報道は、スピードを要求される。ニュースは事件が起こってから調査が始まる。

有賀　何言ってるんですか？

藤 だから起きてしまうんだよ、誤報道は。視聴者もそれを知らなきゃいけないんじゃないかな。

有賀 それって誤報道を正当化してるだけじゃないですか。

藤 そういえばアメリカの放送局は謝らないって。謝らないで新しくわかった事をすぐに伝えるんだって。

有賀 アメリカが全部正しいなんて思ったら大間違いです。

藤 私が言いたいのはね、放送局を頭から信じるような馬鹿なことはしちゃいけないってこと。報道は絶対じゃないって知らなくちゃいけないんだよ。謝るより、過ちを繰り返さないことを要求しなくちゃ。

有賀 ニュースやつてる人間がそれ言っちゃおしまいです。信用されない番組作ってどうするんですか。

藤 だから、痛みを感じながら、自分達で誤報道を検証したいの。

江西 ……あの、二重、三重のチェック体制が必要だと思うんです。

有賀 は？ たった三人で？

江西 あさひ先輩と志良先輩はいつも意見がぶつかってて、違う角度から物事が見えてたって思うんです。それが、今回に限ってたまたま……。言い出しっぺが私だったからかな？

有賀 しょうがなかったんですよ。納谷さんが苦しんでて学校にも来られなくて、報道で助けなくちゃならないって思ったんだから。

藤 でもニッケイを傷つけたことは許されない。

有賀 だから誠意を持って謝るしかないんじゃないですか？

藤 仕方ないで済ませたくないから、謝らない。

有賀 それが、ニッケイの望んでることなんですか。

藤 私は、何を差し置いてでもニッケイには謝り続ける。

有賀 だったら……

藤 でも、報道では謝らない。訂正はするけど謝罪はしない。

江西 でも、謝らなきゃ、見る人は許してくれないんじゃないですか。

藤 いいじゃない、許されなくたって。真実を明らかにできれば、十分だよ。

溶暗。

#第十場 カニ玉大爆発

九月二十七日。スタジオに藤、モニター室では加藤が機材の操作をしている。舞台手前は学食。上手、下手にそれぞれ和食派と洋食派が陣取っている。その間にマイクを持った有賀とカメラを持った江西。

藤 （テーマソングとともに） こんにちは、報道センター123です。昨日の全校投票は和食派の勝利に終わりました。レポーターの有賀が現在学食に中継に行っています。有賀さん。

有賀 はい、学食では今、和食派の皆さんが勝利に沸いています。大変な熱気です。（和食派陣営に駆け寄り）藪下会長、今のお気持ちはどうですか？（藪下にマイクを向ける）

藪下 感動した！（和食派の黄色い声援を受けながら） ついに我々の努力は報われたのです。痛みに耐えてよく頑張った。皆さん、ありがとうございます！

和食派陣営では、「純様コール」が上がるなど大いに盛り上がっている。

藤 有賀さん、洋食派の皆さんはいらっしゃるんでしょうか。

有賀 はい。（洋食派陣営に駆け寄り）阿南会長、今回は残念な結果となってしまいましたが、今のお気持ちはどうですか。（阿南にマイクを向ける）

阿南 投票の結果は無効である！ 藪下純一郎は、洋食派にみせかけたテロを自作した卑怯者だ！

洋食派陣営から「最低」等とヤジが飛び、和食派陣営にざわめきが起こる。

藪下 何言ってるんですか。どこにそんな証拠が。

有賀 確かに、報道部の調査でも、近藤さんに科学同好会の部活動への昇格を約束し、洋食派 買収かよ。

有賀 和食派に有利な発言をお願いしたという疑惑が上がっています。

藤 有賀さん、不確定な要素については発言を差し控えてください。

「また誤報？」等、和食派陣営から報道部へのヤジが飛ぶ。

藤 藪下会長、失礼しました。

藪下 いえ、かまいませんよ。

藤 報道部では、テロ事件以降、独自の調査を行ってまいりました。理科の白木先生にマスクの再分析をお願いしましたところ、近藤さんのものとは異なる結果が出ました。

洋食派 おいおい。

藪下 近藤さんの分析ミスが、どうして僕の疑惑になるんでしょう？

洋食派 言い逃れ？

藪下 そんなことをしなくても和食派の勝利は確実じゃないですか。

洋食派 しらばっくれんじゃねえ。

阿南 あ、そう、ふーん。ハヤシライスブームに火をつけたニツケイの人気を落とそうなんて考えたこともないんだ。じゃあ、誰が婚約の噂を広めたんだっけ？

和食派からは「知るかよ」、洋食派からは「誰だっけ？」等と、互いにヤジが飛び交う。

有賀 新田先生の婚約は藪下会長からいただいた情報です。そうですね、藤さん。
洋食派 情報操作？

藤 はい。去る九月十四日の放課後、藪下会長は婚約情報とともに周南高校の卒業アルバムまで提供してくださいました。

和食派 報道部のやらせかよ。

洋食派 どう説明すんだよ？

藪下 阿南会長こそ自分の人気回復のためにニッケイの糾弾を買って出たんじゃないんですか。

和食派 そうだそうだ！

阿南 報道部のいい加減な番組によって、間違った判断をしてしまったことをとても後悔しています。

洋食派から、「そうだそうだ」「報道部のせいだ！」等と、再び報道部へのヤジが飛ぶ。

有賀 その件に関しての取材不足は認めますが、ことが大きくなった原因は阿南会長の過激な演説せいもあるんじゃないですか。

藪下 そうですね。それに比べ、我々前期生徒会は新田先生の無実を信じ、調査を続けていました。

和食派 純一郎を見習え！

阿南 水着泥棒とか、妊娠させたとか、でたらめな噂ばらまいてただけじゃない。皆さん、ニッケイの人氣が落ちればハヤシライスの人氣も落ちるなんて、せこいこと考えてたんですよ、この人。

洋食派 せこーい。

和食派 せこくねえよ。

藤 さあ皆さん、投票のやり直しを訴えましょう。こんな卑怯な手を使った和食派を決して許してはなりません。

洋食派 よっ！ 瑞穂！

藪下 選挙に不正があったかどうか、そんなことは問題ではありません。何故なら、有権者の投票の基準は好みでしかないからです。

和食派 よっ！ 純様！

藪下 もう一度投票し直したところで和食派が負けるなんてことがありますか？

洋食派 ありえまーす。
和食派 ありえねえよ！
洋食派 なんだとコラア？

両陣営がにらみ合い、一触即発の雰囲気。

阿南 まともな議論もせずに数の論理、力の論理で、少数派意見をぶつ潰す。それが生徒会長のやり方？
洋食派 とつとやめろ！

藪下 阿南会長、あなたこそ、自分がその数の論理で生徒会長に当選したということをおぼれているようですね。

和食派 阿南こそ、やめちまえ！

藪下 都合の良い時だけ少数派擁護ですか？

洋食派 黙れ、もじゃ毛！

阿南 何ですって！（藪下を平手打ち）

スローモーション。照明が切り替わり、どこからか音楽。他の生徒達も乱闘に加わり、さながら闘争の時代を描いた映画のワンシーンのよう。無意味に感動的である。そこへ蟹江が登場。

蟹江 いい加減にしなさい。

蟹江の一声で音楽が止まり、ストップモーションが解ける。生徒、口々に、「カニ玉？」「教頭だ」とざわめく。

蟹江 何度くだらない騒ぎを起こしたら気が済むの。

阿南 教頭先生、生徒会の話し合いに口を出すのは、止めて頂けませんか。この問題は、私たちだけで、

きっちり話をつけます。

生徒
そうだよ。

蟹江
生徒をまとめ、学校行事をスムーズに行えるようにするのがあなた達の仕事でしょう。その生徒会長が生徒を煽って騒ぎを起こすなんて。こんなこと前代未聞です。

生徒
うっせえよ、ばばあ！

蟹江
(ひとにらみで生徒を黙らせる) 先ほどの職員会議で学食のメニューはハヤシライスと和風定食の二品削減することに決まりました。

生徒
はあ？ ざけんなよ。

藪下
そんな、一品だけって約束じゃないですか。僕たちの努力を無にするんですか。

蟹江
自分で蒔いた種でしょう。

「なんで和風定食まで削減されなきゃいけないんだ」「何教頭が勝手に決めてんだよ」等、生徒たちが一段と騒ぎ出す。

阿南
ねえみんな、落ち着いて！

生徒
お前のせいで和風定食まで削除されたじゃないか！

再び激しい罵声が飛び交う。

蟹江
止めなさい。これ以上の騒ぎは許しません。

蟹江の声で生徒たちは一瞬黙る。

蟹江
これが、生徒の皆さんを守る立場にある私たちの判断です。

生徒たちは、トーンを落としながら、ぶつぶつと不平を口にしている。

阿南 「生徒の皆さん」？ 守ってるのは自分の身じゃないんですか。(蟹江に掴みかかろうとする)
藪下 瑞穂。(阿南を制する)

阿南 じゃあ、私たち生徒会は何なんですか？(悔しさに膝から崩れ落ちて) 学校のお飾りですか。

蟹江 ですからね……(幼い子をあやすように、阿南を優しく諭し始める)

有賀 (カメラに向かい) 生徒会長達は意見を聞き入れない教師の横暴さに憤慨しています。メニューを二品とも削減するという教師の暴挙を許していいのでしょうか。

蟹江 (有賀に気づいて) カメラを止めなさい。報道部は、新田先生の事でとんでもない問題を起こしたばかりでしょう。

有賀 その誤報道については、番組できっちり訂正しましたし、今も検証番組を制作中です。(カメラに向かつて) 大変なご迷惑をおかけしました。

生徒 (報道部へ) それで謝ってるつもり。

生徒 (報道部へ) 頭さげてるだけじゃん。

有賀 (カメラに向かつて) 本当に申し訳なく思っています。

蟹江 誰に言ってるの。

有賀 (蟹江に) でも、それと今日の放送とは別です。言いがかりは止めてください。

生徒 (報道部へ) 開き直ってるよ。

蟹江 言いがかり？ これ以上騒ぎを大きくしないでってお願いしているんですよ。

有賀 学校内の騒動を中継し、教員の不当な決議の訳を問うことがなげいけないのでしょうか。

藤が学食に飛び込んで来る。

江西 あさひ先輩！

藤 (有賀からマイクを取り上げて) 教頭先生、失礼の数々申し訳ありません。

有賀　　なんで謝るんですか。(藤を引き留めようとするが振り払われる。悔しさに地団太踏みながら)あ
さひさん！

藤　　ですが、教頭先生、報道部は放送停止を受け入れるわけには参りません。生徒の知る権利を行使
するのが我々の使命だと考えるからです。

「はあ？」「使命って」「何言ってるの」「馬鹿みたい」等と、生徒たちから報道部への嘲笑が起こ
る。

蟹江　　そんなこと言って、生徒を煽ってばかりじゃない。テレビ局の真似事をしていい気になってるん
でしょう。

藤　　私たちがやってることを真似事だって言うんですか。

蟹江　　高校生には高校生に相応しい話題があるでしょう。以前の番組は高校生らしい、良い番組でした
よ。

有賀　　高校生らしい？　高校生らしいって何ですか？　大人に都合のいいって事ですか。

阿南　　そうよ。

蟹江　　あなた達若い人はドラマチックな事にすぐ走りたがるけどね、たとえ地味に見えても、永く受け
継がれてきたものには、良いものが沢山あります。

有賀　　毎日の生活に何の疑問も持たずに、ただのほほんと勉強だけしてればいいって言うんですか。

蟹江　　そんなことは言っていない。私は、勉強そっちのけで、スキャンダラスなことに騒ぎを起こす
のは愚かなことだと言っているんです。

有賀　　教頭先生、あなたこそ愚かですよ。私達、今、すつごく大切なこと勉強しています。無抵抗に権威
に従っちゃいけない、自分の周りに関心をもって目を光らせていないと知らない間に誰かの良い
ようにされる、って。

自らの使命感に従い、真剣な眼差しで、藤はマイクを、江西はカメラを有賀に向けている。

阿南 そうですよ、教頭先生……（生徒たちとともに、蟹江に抗議を始める）

藤 （マイクを握りしめ、カメラに向かって）生徒の皆さん、学食メニュー削減については、四十二パーセントの人がどうでも良いという意見を出されてきました。三十九パーセントの和食派を代表する藪下前期会長や、十九パーセントの洋食派を代表する阿南後期会長の努力も空しく、本日、突如開かれた職員会議において、メニューは二品削減されることになりました。（カメラの向こう側でただ傍観している、物言わぬすべての人々に向かって）……皆さん、これでいいんですか？あなたたち自身の学校のことなんですよ？

蟹江 カメラを貸さない！

蟹江がカメラに手をかけた瞬間、カメラの電源が切れ、暗転。
暗闇の中、砂嵐の音だけが流れる。

井第十一場 報道スパイラル

モニター室。投書を読んでいる有賀の横で、藤は虚脱感に包まれた状態でパペットのマイク君を抱きしめている。

藤 ……ああ、やっちゃった。

有賀 やっちゃいましたね。カニ玉の顔、最高でしたよ。まさかあさひさんがカニ玉を怒らせるなんて。

藤 もうそれ以上言うなあ。

有賀 もう、すっかりしてくださいよ。一週間ぶりの放送再開ですよ？ 燃えましようよお！

藤 ……報道って、何なんだろうね。

有賀 なんでしょうねえ。人を熱くかき立てるもの？

藤 それって、煽動してるってことですよ。

有賀 そうですか？

藤 (投書を読む) 「謝れ報道部」、「いい気になるな、藤あさひ」……

有賀 すごいじゃないですか、これだけの反響があったんですよ？

藤 (有賀を睨む)

有賀 私、後悔してません。

藤 志良は強いよね。

有賀 あれ？ 許されなくてもいいって言ってませんでしたっけ？

藤 そのおだけとお、でもやっぱ嫌われたくないよう。

有賀 はあ。(某ドキュメンタリー番組のテーマソングを口ずさむ)

藤 ……私、何やってたんだろ。恋も自由も捨てて、部活を愛して早三年……私の青春カムバック！

(投書を次々に放り投げ、マイク君も落としてしまう) おお、かみよ。(手を空に突き出す)

有賀 (一枚の紙投書に気づき) あさひさん、あさひさん。(落ちているマイク君に気づく) マイクウ。

(マイク君を拾い上げ、手に持っている投書を見せてあげる) わあお。……「尊敬します。貴方は弱虫の私に、勇気とは何かを教えてくださいました」

藤 (思わず有賀から投書を奪い取り) これ……。

有賀 私達は、眠ってた生徒を目覚めさせたんですよ。凄いいじゃないですか。

藤 ……そうだね。

有賀 はい。(涙ぐむ藤の頭をマイク君に噛ませながら、微笑む)

江西 駆け込んで登場。

江西 遅くなりましたー。(散乱している投書たちを見て) 何ですか、これ？
有賀 投書！ すごいでしょ。

藤は手に持っていた投書を江西見せる。

江西 (投書を読むと、パッと顔を上げて) やりましたね、すごいです！
有賀 分かってくれた人もいるんだよ。

手を取り合って喜ぶ三人。

藤 (声を震わせながら) やってて、よかった……。

有賀、江西から投書を受け取り、マイク君の口に咥えさせると、それを大切そうにデスクへ置く。
三人は無言で、落ちていたほかの投書を拾い始める。藤は、先ほどの投書を咥えて佇むマイク君に気づき、その頭をそつとなでる。ふと目が合い、有賀は進行表が書かれたバインダーを藤に渡し、ニヤリと笑う。

藤 (有賀に笑い返してから、江西の方をしつかりと向いて) ……行こう。

江西 (頷いて) はい。あさひ先輩、これが原稿になります。(藤に原稿を手渡す)学食メニュー二品削減に対する生徒の意識調査の報告と、阿南会長が始めたスカート廃止運動についてです。

打ち合わせしている二人の後ろで、有賀はなにやらここそこそと機材をいじっている。

江西 賛成派・反対派それぞれ三件、「どっちいでもいい」っていう生徒のインタビューが二件入ってます。志良先輩、Vの最終確認できてますか？

有賀 あ、あんた、組長のV忘れてたでしょ？

江西 忘れるわけじゃないじゃないですか。ぼっちりですよ。(有賀に取材テープを渡す)
藤 (感心して) なんか、景、大人になったみたい。

江西 えへっ！ 早くあさひ先輩みたいになりたくて！

藤 (江西を真似て) えへっ！

有賀 私じゃないの？

加藤登場。有賀は、江西から受け取った取材テープをこそこそとどこかへ隠している。

加藤 えっと、時間じゃないかいねえ。

有賀 先生待ちでしたあ。

江西 お久しぶりです。

加藤 すまんねえ、今日は、何の事件があつたんかいのお？

有賀 またまたきつい冗談を。

藤 今日の番組は、学食メニュー二品削減に対する生徒の意識調査の報告と、阿南会長が始めた、制服のスカート廃止運動についてです。一般生徒たちの声と、山口先生のインタビューをとつてます。

江西 あ、教頭先生の意見も聞いた方が良かったですね。

有賀 けっ。カニ玉のご機嫌伺いなんてごめんだね。

加藤 ああ、中華が話題かね？

藤 え？

加藤 カニ玉じゃろう？

有賀 (笑いながら) 次は中華かよ。

藤 (笑って) いや、そういうわけじゃなくて。

藤と加藤がスタジオに入り、モニター室では有賀と江西がスタンバイ。

藤 (感慨深げに) 久しぶりだあ。

有賀 (インカムに向かって) 本番行きます。

藤・江西 はい。

有賀 スタジオ五秒前、四……。

加藤 (前を見据えたまま、頷きつつ) ようやっちよるよ。

藤 (加藤を見て) え？

報道センターのテーマソング。藤、慌ててカメラに向かって居住まいを正す。

藤 十二時三十分になりました。報道センター123の時間です。(にっこりと微笑む)

報道センターのテーマソングが響く中、いつもと変わらない様子で放送が始まる。無声。有賀と藤のVスタートのポーズの直後、驚いて思わず立ち上がる藤。口をあんぐりとあけて驚く三人に、ガッツポーズの有賀。どうやら、また有賀がなにかとんでもないネタをぶち込んで来たようだ。報道部は、やはり相変わらず……である。

幕